



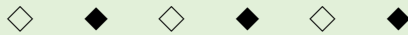
産学連携製造技術人材育成事業 マイスターズ・カレッジ 2020 を開催 (MEISTER'S COLLEGE 2020)

災害に強い企業を目指す

マイスターズ・カレッジは、企業、大学等高等教育機関、産業支援機関等との産学連携により、基盤技術高度化を図る研修事業を実施し、製造現場等の中核人材育成を通じて企業の付加価値を高めるために、平成18年度から毎年開催しています。

今年度は、昨年度の台風19号による水害や、昨今の新型コロナウイルス感染症など、自然災害、伝染病等などの災害リスクに対し、「企業防災」だけでなく、「事業継続力の強化」のため、日本大学工学部、民間事業者と共に、実践的な「事業継続計画（BCP）」を理解し、事業継続計画を策定するための講座を開講いたします。

お申し込み方法など詳しくは、ちらしをご覧ください。



日程：令和2年10月12日（月）
会場：ビッグパレットふくしま4階 プレゼンテーションルーム
参加費：5,000円（1社あたり）
定員：10社（1社3名まで）
対象：中小企業の経営者、BCP担当者
主催：公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構
共催：日本大学工学部
後援：郡山市、須賀川市、鏡石町、石川町、玉川村、三春町



昨年度開講式の様子

ICT高度利用推進事業 「RPAハンズオンセミナー」開催案内

近年働き方改革の一環として期待されているRPA。業務効率化の威力から、業界、地域問わず注目を集めています。またRPAは種類や機能がたくさんあります。導入を検討されている方や比較や選ぶのが大変だと感じている皆さまに、RPAを実際に操作し、RPAの仕組みや機能について体験し、簡単な業務をRPA化していただくハンズオンセミナーを開催いたしますので、この機会をお見逃しなく是非ご参加下さい。

記

日時：令和2年9月16日（水）10:00～16:00
会場：郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 1F 会議室
（日本大学工学部キャンパス内）TEL：024-926-0344
受講料：無料（※PCをご持参いただきます。）
定員：10名
対象：RPAの導入を検討している方、RPAの操作を体感してみたい方、企業、自治体など。
内容：RPAを実際に操作することで、RPAの仕組みや機能について体験できます。
講師：ソフトバンク株式会社 5G&IoT エンジニアリング本部 東北IoT技術部
山本 浩己（やまもと ひろき）氏
主催：郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会
TEL：024-947-4400
共催：郡山市、公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構
協力：日本RPA協会、ソフトバンク株式会社
申込：当協議会HP申込フォームよりお申込みください。
<https://www.techno-media.net6.or.jp/newmedia/>
締切：定員になり次第締め切らせていただきます。

郡山テクノポリス地域戦略的 アライアンス形成会議 令和2年度 第2回役員会を開催

令和2年8月6日（木）、郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議の役員会が開催されました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策から、第1回役員会がWebによるリモートで開催、総会については、書面決議であったことから、今年度の役員が集う初めての会議となりました。

会議は3密を避けることから、役員会に参加する役員、事務局職員の3倍の定員を持つ会議室で行いました。

役員会では、事業進捗状況等について説明、役員の皆様の了承が得られました。

当アライアンス形成会議の主要事業でもある3つのフォーラム開催等、事業を進めてまいります。

ICT 高度利用推進事業 「RPA セミナー」開催報告

令和2年8月26日(水)に、近年働き方改革の一環として期待されまた業務効率化の威力から、業界、地域問わず注目を集めているRPAについてセミナーが開催されました。

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会が主催、郡山市、公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構が共催し、日本RPA協会の永岡翼氏、ソフトバンク株式会社の山本浩己氏、郡山市ソーシャルメディア推進課の三代川和弘氏、行政マネジメント課の馬場守吉氏を講師に迎え、Webセミナーとして開催されました。

セミナーでは、RPAの現状、先進企業の取り組み、歴史的な成り立ち、動作する仕組み、郡山市の取り組みについて講演を行いました。

参加者からは、「RPAの概要を理解することができた」など、感想が多く寄せられました。

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会では、今後も、ICTを活用した新しい技術に関するセミナー等を開催していく予定です。

※RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)とはソフトウェアのロボット技術により、定型的な事務作業を自動化・効率化すること。特に、事務を補完・代行する仕組み。



セミナーの様子

ロボットテクノロジーフォーラムボード メンバー会議を開催

郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議の中心事業であるロボットテクノロジーフォーラムの開催に向け、令和2年7月15日(水)にフォーラムの中心的役割を担うボードメンバー企業とそのコーディネーターとなる日本大学工学部教授とボードメンバー会議が開催されました。

ボードメンバー企業から、昨今のロボット事業やFA事業に関する取り組みについて情報交換を行いながら、ロボットテクノロジーフォーラムの開催に対するテーマなど、活発な意見が出されました。

今後、ボードメンバー会議の意見を踏まえて、ロボットテクノロジーフォーラムを開催いたします。

なお、フォーラム開催に当たっては、「テクノポリスだより」において案内を行いますので、是非ご参加ください。



健康医療福祉産業創成フォーラム ボードメンバー会議開催報告

令和2年7月29日(水)に、郡山地域ものづくりインキュベーションセンター会議室を会場に、健康医療福祉産業創成フォーラムボードメンバー会議が開催されました。

会議では、各企業から、健康医療福祉に関する取り組み状況の報告を行うとともに、今年度開催予定の第8回フォーラムの事業内容について審議しました。

なお、会議の結果、第8回フォーラムでは、ものづくり企業による医療機器産業への参入に関する事例紹介や医療現場のニーズ紹介等について講演及び意見交換会を開催することが決定されました。

開催日時等につきましては、準備が整い次第、順次公表する予定です。



今月のコラム (技術コーディネーター 井上明博)

【事業継続計画(BCP)からマネジメント(BCM)への対応】(参考TRC EYEvol.279から)

『基本的な考え方』(その1)について、東日本大震災の教訓から、1)災害時の業務の見える化と緊急時対応計画の整理、2)ビジネスインパクト分析と重要業務の絞込み、3)被害想定と致命的害から免れるための事前対策、4)柔軟性の高い事業継続戦略、5)演習・訓練の実施、6)サプライチェーン・リスクマネジメント(SCRM)の構築、の6つの視点で整理してみます。

今月は、**1)災害時の業務の見える化と緊急時対応計画の整理**についてご説明いたします。緊急時対応計画は以下の3つの業務から検討することがポイントです。

- a.緊急対応業務/①優先すべきは従業員の避難・救助、その家族の安否確認と安全確保である。資機材や備蓄品の確認といった業務。②次に災害対策本部を設け、建物の健全性を確認した後、2次災害に注意しつつ、被害の拡大を防ぐ活動などに着手。③更に、工場周辺の被害状況などの情報収集や本社との連絡体制を確立、Web上での情報発信・広報対応、また、工場周辺住民への支援を実施。
- b.復旧対応業務/①建物や設備の被害状況、メーカーの応援内容、原材料・部品の在庫やサプライヤーの被災状況を整理。②従業員の集参状況を踏まえ、本社に支援要員や水・食料の手配を依頼。③具体的な復旧計画を策定。
- c.継続業務/顧客やサプライヤーへの代金支払い、従業員への給与支払いなどの業務。

今回は『BCMの基本的な考え方』(その2)の2)~3)項目について掲載致します。

